

「令和7年度 第3回 高知県橋梁会研修会」報告

高知県橋梁会理事 友田 一志

令和7年度第3回研修会が2025年12月12日(金)に公益社団法人土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催により、高知市本町の高知会館「白鳳の間」で開催された。

研修会では4テーマについて講演が行われ、年末の何かと忙しい時期にもかかわらず132名が参加し、どの講演も大変興味深い内容で非常に有意義な研修会となった。また、研修会の後に会場を「飛鳥の間」へ移し懇親会を開催した。

■研修会 (13:30~17:00)

研修会の開催に先立ち、右城会長から開会の挨拶があった。その中で、11月26日に南国市で開催された「大豊プロジェクト有識者会議」が紹介された。大豊町の橋梁をモデルにし、「インフラの終活」の概念を取り入れた新しいインフラマネージメントに対して、土木学会の会長も歴任された家田仁先生をはじめ、この分野の第一人者より活発な意見が出されたという報告であった。続いて、本日の講演内容の紹介があった。(13:00~13:10)



右城会長による開会の挨拶

1番目の講演は、オイレス工業(株) 免制震事業部 部長 五十嵐隆之氏から「河川内工事を最小化する耐震補強の提案」と題し、高知県内における橋梁耐震補強の現状や課題、ダンパーを利用した耐震補強工法のメリットなどについて紹介頂いた。

ダンパーの原理についてブランコの運動に例えて解説され、変位抑制や地震力の分散により橋脚巻立等を省き、コストメリットを高めることが可能で

あると説明があり、多数の事例紹介を行って頂いた。(13:40~14:20, 40分)



五十嵐隆之氏による講演

2番目の講演は、UIC コンサルタント(株)の執行役員 調査部長 鬼村雅和氏から「山岳トンネル切羽の岩盤判定にAIを用いた検証事例」と題し、土木分野におけるAI活用の動向や、トンネル切羽の画像によってAIによる岩盤判定を行った検証事例の説明があった。

土木分野のみならず、現在の一般的なAIの活用状況を詳しく解説頂き、AIをより身近に感じることができる説明を頂いた。AIによる岩盤判定事例では、危険度の高いトンネル切羽への近接機会を低減することができるため有効な活用方法であり、データ蓄積により判定制度が高まることが期待されると説明された。しかしながら、現段階ではやや施工者よりの判定に偏る傾向があること、圧縮強度や走向傾斜などの画像での判断が難しい要素があることも併せて説明頂いた。(14:20~15:00, 40分)



鬼村雅和氏による講演

3 番目の講演は（株）第一コンサルタンツ 常務取締役 森田徹雄氏から「高知県測量設計業協会能登視察研修の報告」と題し、令和 7 年 10 月 15 日から 10 月 17 日に行われた能登視察研修の報告を行って頂いた。

視察中は生憎の天候であったものの、令和 6 年能登半島地震の被災状況やその後の復興状況について多数の写真を用いて説明され、現状では被災施設の取り壊しは進められているものの、復興には至っていない状況であることが把握できた。

また、これからの課題としてあらかじめ復興方針などについて住民の同意を得る「事前復興まちづくり」等の策定が肝要であると述べられた。

(15:10～16:05, 45 分)



森田徹雄氏による講演

4 番目の講演は山口大学大学院 創成科学研究科 社会建設工学分野 准教授 渡邊学歩氏から「小規模橋梁のたわみモニタリング実施と統計調査のま

とめ」と題し、橋梁の振動・たわみモニタリング結果の橋梁点検への応用などについて講演頂いた。

たわみモニタリング結果から、無次元化された「規格化たわみ」の導入により部材健全度評価に資する定量的指標として活用できることが示唆された。しかしながら、PCT 桁橋のように複雑な断面形状の橋梁では異なる結果を示すこともあり、3次元点群データ取得により断面形状等をより高精度に把握することで、規格化たわみは有効な指標として活用できる可能性があることを説明された。

(16:05～16:55, 50 分)



渡邊学歩先生による講演

研修会では参加者が熱心に聴講するとともに、各テーマに対して活発な質疑応答がされた。



熱心に聴講する参加者

全講演終了後、右城会長より長年高知県橋梁会の理事を務める岡林弘憲氏が都市開発コンサルタント（株）代表取締役に就任されたことが報告され、花束が贈呈された。



岡林理事への花束贈呈

森下副会長による閉会の挨拶では、本日の講演者や参加者への謝辞、次回研修会の開催予定、講演内容の募集などの報告をいただき、研修会を終了した。

(16:55～17:00, 5分)



森下副会長による閉会の挨拶



友田理事による司会進行

■懇親会(17:30～19:30)

セミナー終了後に会場を「飛鳥の間」へ移して、参加者 71 名で懇親会を開催した。

右城会長による開会の挨拶の後、岡林理事のお礼の挨拶に続いて昨年度以降の新入会員の 3 社からの挨拶が行われ、高知県橋梁会会員の矢田部先生による乾杯の音頭で懇親会を開始した。

中締め挨拶は、高知県橋梁会森下副会長より、高知県橋梁会のさらなる発展と参加された皆様のご健勝とご多幸を祈念して一丁締めでお開きとなった。



右城会長による開会の挨拶



岡林理事の挨拶



新入会委員の挨拶



懇親会場の様子



矢田部先生による乾杯の音頭

■あしがき

研修会は132名、懇親会も71名と多くの皆様に参加をいただき、充実した研修と有意義な懇親を深めることができた。

高知県橋梁会では更なる研修の充実と会員各社の発展に寄与すべく、積極的に活動を続けていく所存であり、今後も会員各社のご協力をお願い申し上げます次第である。



懇親会場の様子